

## ハラスメント防止対策の指針

### 1. 事業所におけるハラスメント防止に関する目的

当法人は利用者に対してより良い支援を実現するために、職場及び支援の現場におけるハラスメントを防止する。ハラスメントは、個人の尊厳を不当に傷つける社会的に許されない行為であり、いかなる形態のハラスメントであっても、これが黙認されたり、見過ごされたりすることがあってはいけない。従業員一人ひとりがハラスメントについて理解するとともに、全ての人権が尊重されることを目的とし、本方針を定めることとする。

### 2. 事業所におけるハラスメント防止に関する基本的考え

#### (1) パワーハラスメント

優越的な関係を背景とした言動であって、業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより、労働者の就業環境が害される行為であり、下記のようなものを言う。

- ① 身体的な攻撃（暴行・障害）
- ② 精神的な攻撃（脅迫・名誉棄損・侮辱・ひどい暴言）
- ③ 人間関係の切り離し（隔離・仲間外し・無視）
- ④ 過小な要求（仕事を与えない、又は能力とかけ離れた程度の低い仕事を命じる）
- ⑤ 過大な要求（業務上明らかに不要なことや遂行不可能なことの強制・仕事の妨害）

⑥ 個の侵害（私的なことに過度に立ち入ること）

## （２） セクシャルハラスメント

職員が他の職員を不快にさせる職場内・外における性的な言動により、当該職員の勤務環境が害されること及び勤務条件につき不利益を受けること をいいます。

① 性的な冗談、からかい、質問

② わいせつ画像の閲覧、配布、掲示

③ 性的な噂の流布

④ 身体への不必要な接触

⑤ 性的な言動により職員等の就業意欲を低下させ、能力発揮を阻害する行為

⑥ 交際、性的な関係の強要

⑦ 性的な言動に対して拒否等を行った部下職員に対する不利益取扱い

⑧ その他、他人に不快感を与える性的な言動

（３） 利用者・家族等から職員へのハラスメント、及び職員から利用者・家族等へのハラスメントの両方をさす。

① 身体的暴力（回避したため危害を免れたケースを含む）

例：ものを投げる、叩かれる、蹴られる

② 精神的暴力（個人の尊厳や人格を言葉や態度によって傷つけたり、おとしめたりする行為）

例：大声を出す、理不尽な要求をする

③ セクシャルハラスメント（意に添わない性的誘いかけ、好意的態度の要求等、性的ないやがらせ行為）

### 3. 職場におけるハラスメント対策

（1） 当事業所の職員間及び取引業者、関係機関の職員との間において、上記2に掲げるハラスメントが発生しないよう、下記の取り組みを行う。

- ① 円滑に日常業務が実施できるよう、日ごろから、正常な意思疎通に留意する。
- ② 特に役職者においては、ハラスメント防止に十分な配慮を行う。

（2） ハラスメントの相談窓口を職場内に設置することとし、代表取締役が窓口を担当する。

- ① ハラスメントの相談を行った職員が不利益を被らないよう、十分に留意する。
- ② ハラスメントの判断を行ったと指摘された職員については、弁明の機会を十分に保ずる。
- ③ ハラスメントの判断や対応は、会議で検討する。

### 4. 支援現場におけるハラスメント対策

（1） 職員による利用者・家族へのハラスメント及び、利用者・家族によるハラス

メント防止に向け、次の対策を行う。

① 職員に対する金品の心づけのお断り

② サービス内容に疑問や不満がある場合、又は職員からハラスメントを受けた場合は、気軽に各事業所管理者に連絡いただく

③ 職員へのハラスメントを行わないこと身体的な攻撃（暴行・障害）

(2) 利用者・家族から、暴力やセクシャルハラスメントを受けた場合及び、利用者・家族に何らかの異変があった場合は、上司及び各事業所管理者に報告・相談を行う。

(3) 各事業所管理者は、相談や報告のあった事例について問題点や課題を整理し、会議で検討をし、必要な対応を行う。

## 6. 指針の閲覧について

ハラスメント防止対策のための指針は、求めに応じていつでも利用者及び家族等が自由に閲覧できるように、当法人のホームページに公表します。

### 附則

この指針は、令和4年4月1日より施行する。